

編集後記

今年の増刊号をお届けする季節です。「検査と技術」増刊号は、毎年前年11月に編集委員会でテーマを検討して、最近の臨床検査の話題や進歩に合った内容を通常号と異なる体系に編集してお届けしています。

今年のテーマは「免疫反応と臨床検査」で、臨床検査に広く利用される免疫反応の特集です。出来上がったこの増刊号を読んでもと基礎編の「イムノアッセイの変遷」では免疫反応がRIA法に始まり、現在の臨床検査に応用されてきた変遷や自動化で大量、迅速処理が可能になった検査法であることがわかります。イムノアッセイは、高感度化、微量化、短時間化さらに経済性の進歩が目覚ましく、マイクロチップ電気泳動、高感度な均一系アッセイのLOCI法、同時に多項目検査ができる機器などの最新の情報が得られます。また、救急の現場などでは簡便かつ迅速にベッドサイドで検査結果が出るPOCTや、イムノクロマトグラフィを用いた検査が実施されています。免疫反応では、検出感度、特異性や異常反応などがピットフォールになるので、その実例を挙げて問題点を解説しています。さらに疾病の診断・治療のためには、どの施設でどのメーカーの試薬で検査しても同じ結果で報告される必要があります。しかし、外部精度管理で明らかになるように免疫血清検査ではメーカー差、施設間差が多々みられます。われわれはこの免疫反応の長所、短所をよく理解して、臨床に正しい結果やコメントが報告できるように努力していきたくものです。

各論では、広く免疫反応が利用されている自己免疫疾患、感染症検査、生化学では動脈硬化、心疾患、炎症マーカー、肺繊維化や肝繊維化マーカーへの応用について最新検査の知識を得ることができます。さらに血液、血栓止血、一般や病理検査にも免疫反応が広く用いられ、臨床検査のあらゆる分野に応用されていることが実感できます。

最後に、各メーカーが免疫反応を応用した最新の自動機器を紹介していますので、検査法や機器の変更の際に、非常に役に立つ情報だと思います。

免疫反応の臨床検査への応用は、ますます迅速化、高感度化、自動化が実現され結果報告までの所要時間(turn around time, TAT)の改善をもたらす、臨床検査を変えていくと思います。これからの季節は、学問の秋、味覚の秋でもあります。この秋の夜長に秋の味覚でも楽しみながら、もう一度免疫血清学の歴史を振り返り、最新の検査知識を取り入れていただくことを期待します。

(曾根伸治)

検査と技術

2010年9月15日発行(毎月1回1日発行)

本号特別定価 4,830 円(本体 4,600 円+税 5%)

年ぎめ予約購読料 19,450 円(送料弊社負担・増刊号を含む 13 冊)

電子ジャーナル閲覧オプション付 25,300 円(税込)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

☎113-8719

東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5713

ファクシミリ (03) 3815-7802/(03) 3815-7982

E-mail kensa@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kensa/

販売部直通

(03) 3817-5659

振替口座

00170-9-96693

印刷

(株)アイワード (011) 241-9341

広告申込

(株)東広社 (03) 3409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan.

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCOPY (株)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。

(担当 井上・山本・能藤)